

派遣留学生帰国報告書

* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2019/1/9
所属学部・ 研究科・学府	国際教養学部
所属学科・専攻	国際教養学部

1. 留学先について

留学先大学名	ラップランド大学							
留学先所属学部等	教育学部							
留学期間	出発日	2019/8/15	入学日	2019/8/21	修了日	2019/12/15	帰国日	2019/12/29
住居	<input type="radio"/> 大学(紹介)の寮・アパート	<input type="checkbox"/> 民間アパート	<input type="checkbox"/> その他()					
	通学時間	5分(徒歩)					<input type="checkbox"/> On campus	
	通学方法	徒歩・自転車						
	居室スペース	<input type="radio"/> 個室	() 人部屋		<input type="checkbox"/> その他()			
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室	<input type="checkbox"/> キッチン	<input type="checkbox"/> トイレ	<input type="checkbox"/> バス	<input type="checkbox"/> リビング	<input type="checkbox"/> その他()	
食事	自炊	10 %	学食	90 %	外食	% その他 ()		
保険	海外旅行保険(名称)	ジェイアイ傷害火災保険株式会社(おすすめプラン)						
	派遣先大学指定の保険(名称)							<input type="checkbox"/> 強制加入
	その他							
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)							
	成田 ⇄		ヘルシンキ(飛行機)			ロヴァニエミ(電車)		

2. 留学にかかった費用について

総費用	612,035 円								
出どころ									
自費	<input type="radio"/>	貯金	100,000 円	<input type="checkbox"/>	アルバイト	円	<input type="checkbox"/>	その他	円
援助	<input type="radio"/>	両親	512,035 円	<input type="checkbox"/>	家族・親戚	円	<input type="checkbox"/>	その他	円
奨学金	<input type="checkbox"/>	JASSO	円	<input type="checkbox"/>	その他名称()		<input type="checkbox"/>		円
その他	<input type="checkbox"/>	千葉大学助成金	円	<input type="checkbox"/>	その他()		<input type="checkbox"/>		円

2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input type="radio"/>	現金	4万 円		その他()	円
留学中		海外送金	キャッシング	<input type="radio"/>	その他(クレジットカード払い)	

2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	
住居にかかった費用	国際送金(ゆうちょダイレクト)
その他	

2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)	ユーロ	1,339	167,320	円
海外旅行保険	ユーロ	604	75,470	円
OSSMA	ユーロ	117	14,580	円
査証・在留許可証	ユーロ	420	52,500	円
住居	ユーロ	1,362	170,290	円
食費	ユーロ	1,000	125,000	円
通学に要する交通費				円
教科書、教材費				円
その他大学に支払った経費				円
光熱費				円
その他 (学生組合入会費)	ユーロ	55	6,875	円
その他 ()				円
その他 ()				円
その他 ()				円

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex.} 正規、聴講	単位数	単位互換認定申請の有無		
			有	○	無
1 The Phenomenon of Globalization & Cultural Diversity	正規	7ECTS	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
2 Survival Finnish	正規	2ECTS	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
3 Teaching Other Languages	正規	3ECTS	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
4 Children's Literature	正規	3ECTS	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>

5 Phonetics and Pronunciation	正規	5ECTS		有	○	無
6 Oral Skills	正規	5ECTS		有	○	無
7 Observation Period Leading to the Teaching Experience	聴講	2ECTS		有	○	無
8				有		無
9				有		無
10				有		無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

ラップランド大学が開講する授業を閲覧できるサイトがあり、そこで履修登録をします。オリエンテーション期間中にチューターから登録方法を教えてもらいます。半学期で25~30ECTS(ヨーロッパの単位)、一年間で60ECTS取らなければなりません。単位数は授業時間の長さや回数などで決まっています。3時間×17回の授業もあれば4時間×8回のももあります。また、日本の大学とは違い、授業は曜日も教室も定まっておらず、イレギュラーで開講されます。そのため、同じ時間帯に複数の授業が重なってしまうこともよくあります。各授業にそのスケジュール(日付と時間帯)が記載されてありますので、被りがないか確かめながら授業を選択する必要があります。しかし、授業の重複は当たり前のようにあり、教授も認識しているので心配ありません。他の授業と3回以上被ってしまう場合は予め教授に相談をすると思います。

3-2. 授業内容、方法に関して

どの授業も基本的に教授が講義をし、時折り生徒同士でディスカッションをしたり、意見を言ったりする機会が設けられました。一コマ3、4時間という長丁場の授業もありましたが、必ず途中で15分ほど休憩(コーヒーブレイク)がとれます。最終課題は授業によってテストとレポートがあります。レポートは2枚から5枚書きました。

3-3. 語学力について

ラップランド大学には英語を話す教授、英語圏出身の教授もおり、英語で開講される授業がたくさんあります。フィンランド語が全く話せなくても支障はありませんでした。CEFRスケールでは教育学部がB2レベル(IELTS 6.0 / TOEFL iBT 80)となっていました。聞きなれない単語が出たりや教授の話すスピードが速かったりして授業内容についていけないこともありましたが、教授がサポートしてくれたので助かりました。

3-4. 図書館など学内施設について

千葉大学のように学部ごとに建物があるのではなく、一つのビルディングに学部棟、施設があります。図書館は2階建てで勉強机も限られており、昼間は学生で埋まっていることが多かったです。ほかに、留学生のためのインターナショナルオフィスもあり、授業についての相談や留学中に必要な手続きなどができます。

3-5. その他

4. 生活面

4-1. 住居について

大学から徒歩5分、市街地から徒歩30分の寮に住み、リビングとシャワー室、共用トイレ(2つ)は共用で、個室が3部屋ありました。地下には洗濯機が5つ、乾燥機が2つ設置されており、サウナ、共用スペース(ラウンジ)があります。洗濯とサウナは事前に予約が必要になります。寮の裏庭に駐輪場があります。

大学内に2つの食堂があり、平日10時から20時、土曜日10時から14時ごろまで利用できます。通常一食7ユーロほどですが、初めのオリエンテーション期間中に学生組合に入会すれば、一食(ビュッフェ形式)2.6ユーロですみます。毎日メイン(スパゲッティ、お肉、お魚など)が変わり、野菜もたくさん摂取できます。平日は必ず学食を利用し、休日は大学付近のスーパーで食料を買いました。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

個室ごとにwi-fiのルーターが設置されており、共同地下室にもルーターがありました。携帯電話はフィンランドのSIMカードを購入し、一ヶ月20ユーロでネットと電話の制限がなく携帯を利用できました。

4-4. 服装について

8月は薄着の長袖を着用していましたが、Tシャツを着ている学生もいました。9月中旬からはニットのセーターを着るようになり、真冬になると下にヒートテックと冬用のスパッツ、上に薄着の長袖、ニットのセーター、ジーンズを着用しました。外出時は指なし手袋の上にスキー用の手袋、ニットの帽子、ネックウォーマー、スキーウェアを着用しました。

4-5. 健康管理について

友達に勧められても、あまりお酒を飲まないようにしました。

4-6. 保険、OSSMAの利用について

自転車から転倒したとき歯が少し欠けた際に、OSSMAに連絡を取り、近くの病院を紹介していただきました。

4-7. 課外活動について

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

Finnish Friend Programmeという、フィンランドに住んでいる人と交流をするプログラムに参加し、フィンランド人の家族にお世話になりました。独立記念日の夕食に招いてくれたり、サンタクロース村に連れてってくれたりしました。英語で会話をし、フィンランドの文化や習慣を教えもらい、また日本の文化や習慣を話すことができました。

4-9. 日本から持参してよかったもの

ポケットティッシュ30個ほど、日本のお菓子(柿の種)、のど飴、スリッパ

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

フィンランド人は初対面のときはシャイで、向こうから話しかけてくることはほとんどなかったです。しかし、一度話してうちとけてくると、次から昔から友達であったかのように自分を受け入れてくれて、とても仲良くなります。フィンランド人は、パーソナルスペースが広いと言われるなど、相手(他人)と距離を置きたがりますが、とても思いやりがあり、友達や家族を大事にしていると思いました。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

【イギリス・ロンドン(観光)】2019年12月(10日間)、約10万円

その他 *気分転換やストレス発散法など。

たくさんの留学生と一緒に体育館でバドミントンをしたり、夜にナイトクラブへ行ったりして過ごしました。一人でいたときは、自転車です町周辺を散策をして気分転換をしました。

5. その他

5-1. 留学先大学について

留学期間中に手厚い対応をしてくださいました。オリエンテーション期間が5日間あり、申請の仕方、授業、施設などなど様々なことを丁寧に説明してもらいました。また、留学生10人程度に対し1人チューター(ラップランド大学の学生)がつき、大学到着時の迎え、寮の案内などをしてもらいました。毎日のように、大学、街のイベントやプログラムのお知らせをフェイスブックに載せており、留学生が充実した生活を送れるようなサポートをしていたと思います。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

フィンランドに来てからカルチャーショックというものはありませんでした。冬の寒ささえ乗り越えれば、生活も学業も休暇も充実すると思います。ラップランド大学の寮は留学生が集まり、2~4人で1つのアパートに住むこととなります。「アジア人はアジア人と、ヨーロッパ人はヨーロッパ人と、といったように地域ごと、または国ごとに留学生のコミュニティができる」ということはなく、様々な国から来た留学生と分け隔てなく話をしたり、大学で食事をしたりしました。平日も休日も留学生と交流する機会がたくさんあり、積極的に人脈を広げてください。

5-3. 留学を終えて

私は、将来小学校教員になるためのステップとして、留学を利用して英語教育を中心に勉強しました。また、フィンランドは教育大国ともいわれ、その実態についても知りたいと思っていました。大学の授業を受け始めてから、教育学専攻ではない私にとっては何もかも新鮮で取り入れたい情報がたくさんありました。模擬授業という実践的なこともやり、先生やほかの生徒からフィードバックをもらったことで、子どもの前で教える自信につながりました。小学校の英語の授業を観察する機会もあり、子どもたちはどんなことを学んでいるのか、先生がどのように教えているのか、メソッドの意味は何かなどを分析しました。2020年に日本で小学校英語が導入されるため、実際の英語のクラスを観ることは、教員になる上で貴重な経験でした。帰国した現在は、現地では気づかなかったフィンランドの教育事情について調べています。フィンランドの教育における基本的な概念を探りながら、「教育とは何なのか」を考えながら自分の教員像を明確にしたいと思います。